



別冊

取りはずしてご使用ください。



ホントにわかる  
中学3年間の総復習  
国語

解答と解説



新興出版社 shinko publishing



# 漢字・ことば 1

## ステップ 1

- 1 (1)エ (2)イ (3)ウ (4)ウ (5)ア (6)エ
- 2 (1)カ (2)キ (3)ア (4)コ (5)ウ (6)イ (7)ク (8)セ
- (9)エ (10)ス
- 3 (1)10 (2)11 (3)9 (4)12 (5)7 (6)7
- 4 (1)いししょう (2)そうちやく (2)①もけい (2)きば
- (3)①ほ (2)ひあ (4)①あらわ (2)いちじる
- 5 (1)①もっか (2)めした (2)①はいきん (2)せすじ
- (3)①にんき (2)ひとけ
- 6 (1)エ (2)ア (3)ウ (4)イ (5)エ (6)イ (7)ウ (8)ア
- 7 (1)①検討 (2)見当 (2)①現象 (2)減少
- (3)①名案 (2)明暗
- 8 (1)①冷 (2)覚 (2)①明 (2)開 (3)空 (3)①務 (2)努 (3)勤

## ステップ 2

- 1 ①ウ・d ②エ・b ③イ・a ④ア・c
- 2 ①「厂」がんだれ ②ネ・しめすへん ③丸・えんによう
- ④頁・おおい ⑤ハ・れんが(れつか)
- 3 ①エ ②イ ③ア ④ウ ⑤オ
- 4 ①aなつとくbのうにゆう ②aせいしんbしょうじん
- ③awbさ ④aywbなじ
- 5 ①ねんげつ・としつき ②こんじき・きんいろ
- ③ばいう・つゆ(各順不同)
- 6 ①エ ②イ ③ウ ④ア
- 7 ①a感心b関心 ②a余地b予知
- ③a移動b異動c異同 ④a堅b固c硬
- ⑤a備b供 ⑥a裁b絶c断
- 8 (1)十(画) (2)ア・ウ(順不同)

## 解説

- 1 (2)「一」は数という抽象的な事柄を指し示した漢字。
- 2 (6)「敬」は旁(右側)の部分が部首。
- 3 (10)冠(上側)の部分が部首。「穴」という漢字からできた「あなかんむり」。「うかんむり」とまちがえやすいので注意する。
- 4 それぞれ一画で書く部分に注意する。(5)は筆順もまちはがえやすい。外側を書いてから横画を上から順に書く。熟語や使い方で読みが決まっているので覚えよう。
- 5 「音+音」「訓+訓」で読み分ける以外にも、(3)のように「音+音」「訓+音」で読み分けるものがある。
- 6 音訓を正しくとらえる。
- 7 文中での意味を考え、適切な漢字を書く。
- 8 (1)〜(3)いずれもよく出題される。文の形で覚えよう。

## 解説

- 1 ①は「持」の音を「寺」が表している。「清」も「青」が音を表す。
- 2 ①は「がんだれ」。「まだれ」とまちがえやすいので注意する。④「頭」も同じ部首。
- 3 細かい部分まで漢字の形を正確につかんでおく。
- 4 ③④訓読みは、読みにより送りがなの付け方が異なる。読み方によって意味も変わるので注意する。
- 5 ③「席」は音読みしかない漢字。
- 6 文中での意味を考えて書く。⑥「席を立つ」「家が建つ」
- 7 (1)「ころもへん」の部分が連続している。
- 8 (2)ア「あまぐ」(湯桶読み)、イ「バンぐみ」(重箱読み)、ウ「にモツ」(湯桶読み)、エ「わかもの」、オ「チャクリク」。

## 入試につながる

漢字の成り立ち・部首・画数・音訓などはよく学習しておこう。音訓は重箱読み・湯桶読みを見分けられるようにする。

## パワーアップ

- 漢字の成り立ちの種類
- 二つ以上の部分に分けられない漢字
- ↓ 絵からできたように見えたら象形。
- ↓ 記号のように見えたら指事。

- 二つ以上の部分に分けられる漢字
- ↓ 一方が漢字全体の音を表す部分になっていたら形声。
- ↓ 音を表す部分がない場合は会意。

音訓は思い込み(こ)に注意  
訓読みと勘違(たが)いしていたり、音読みしかない漢字もあつたりするので注意しよう。

例絵：㊦工・カイ

# 漢字・ことば 2

## ステップ 1

- 1 (1)キ (2)工 (3)ア (4)ウ (5)イ (6)オ (7)ク (8)ア
- (9)工 (10)オ (11)力 (12)ウ
- 2 (1)イ (2)ア (3)工 (4)ウ
- 3 (1)天然 (2)進歩 (3)共鳴 (4)使命
- 4 (1)しようまつせつ・オ (2)ふわらいどう・キ (3)しんしょうぼうだい・工 (4)ばじとうふう・ア (5)がでんいんすい・力 (6)きしかいせい・ウ (7)じがじさん・イ
- 5 (1)顔 (2)耳 (3)鼻 (4)手
- 6 (1)工・b (2)ウ・a (3)ア・d (4)イ・c

## ステップ 2

- 1 ①力・d ②ウ・b ③ア・e ④ク・g
- ⑤工・a ⑥オ・c
- 2 ①当 ②委 ③対 ④成
- 3 ①供給 ②内容 ③建設 ④現実
- 4 ①a石 b鳥・いっせきにちよう
- ②a言 b道・ごんごどうだん
- ③a五 b霧・ごりむちゆう
- ④a器 b成・たいきばんせい
- 5 ①ウ ②イ ③オ ④力 ⑤ク ⑥キ
- 6 (1)イ (2)ア (3)工 (4)ウ (5)イ (6)オ (7)ク (8)ア (9)工 (10)オ (11)力 (12)ウ

## 解説

- 1 ①握る↑手を (4)軽い↓食事 (6)人が↓造る (7)国際連合の略語。(9)「点」は「ともす・火をつける」の意。(10)市が↓営む (12)達者な↓筆
- 2 (1)「自分から動く」の反対は「人に動かされる」。(3)「増」⇄「減」、「進」⇄「退」。漢字がそれぞれ対になる。
- 3 意味を考えて似たものを探す。同音の漢字とまちがえないように注意して書く。
- 4 主な四字熟語の意味は覚えてしまおう。
- 5 (3)「目が高い」とすると「鑑識眼がある」という意味。故事成語はもとになった故事も覚えよう。オ「白眼視」は「冷淡な態度をとること」という意味。
- 1 ①帰る↑郷に・就く↑職に ③日が↓照る・雷が↓鳴る
- ⑤「思」と「考」「搭」と「乗」は似た意味。⑥俊れた(速い)↓足・軽い↓傷
- 2 ①「とうぜん」、②「いさひ」、③「たいとう」、④「さんせい」と読む言葉ができる。
- 3 「生産」⇄「消費」も覚えておこう。
- 4 ①「一挙兩得」も同じ意味。②「言語」は「ごんご」と読む。③「霧」を「夢」と書き誤りやすいので注意しよう。
- 5 ⑥「気が置けない」を「気を許せない・油断できない」という意味で用いるのは誤りである。
- 6 (1)「裝飾」、「到着」はともに同じ意の漢字の組み合わせ。(2)イ・ウ・エは対義語の関係である。
- (3)「舌を巻く」は「あまりにも優れていて驚く」という意。(4)「蛇足」は「余計な付け足し」という意味の故事成語。「最後のシーン」が余計だったということ。

## 入試につながる

熟語の構成や、対義語・類義語は漢字の意味をつかんで見分ける。二字熟語は主語・述語の関係のもの、三字・四字熟語は対等の関係の語例を学習しておく。

## ↑パワーアップ

熟語の構成

● 次の二つを区別する。

①修飾―被修飾

②動詞―目的・補語

漢字の意味を素直にとらえること。

● 「主・述」の例は少ない。

日没・人造・市営・国  
有・町立・地震・雷鳴・  
鶏鳴・腹痛・頭痛など。  
覚えておこう。

誤りやすい四字熟語

- 意味深長 ×慎重
- 五里霧中 ×夢中
- 心機一転 ×新規
- 絶体絶命 ×絶対
- 前代未聞 ×交代
- 用意周到 ×周到

# 第3回 文法 1

## ステップ 1

- 1 (1)りんごは／すずしい／地方で／つくられる。  
(2)ぼくは／そこまで／列車で／行こうと／思う。  
(3)私は／雪の／結晶を／顕微鏡で／見る／ことに／した。  
(4)庭の／ばらが／つぼみを／つけました。
- 2 (1)車一は長いトネルをようやく一抜け一た。  
(2)見方を変えてみるのも大切なことです。  
(3)その一人に「お礼」の「手紙」を書きましよう。  
(4)マメの「くきは一つ」になつて「巻き付く」。
- 3 (1)イ (2)エ (3)ウ (4)オ (5)ア  
(1)ひぎは (2)大草原が (3)絵は (4)目も  
(1)生物が (2)あきにくい (3)通る
- 4 (1)イ (2)ア (3)ウ (4)イ (5)エ  
(1)イ (2)ク (3)ケ (4)コ (5)キ (6)キ (7)イ (8)オ  
(9)ア (10)ウ (11)ア (12)カ (13)ケ (14)カ (15)ウ (16)エ (17)コ

## ステップ 2

- 1 ① 7 ② 8 ③ 11 ④ 11 ⑤ 10
- 2 ① マグマは・なる ② 年輪は・ある  
③ 川は・美しかった  
④ 本は・これです ⑤ 時期が・来た
- 3 ① キ ② ウ ③ カ ④ エ ⑤ イ ⑥ ア ⑦ ク ⑧ オ  
① 絵を ② 食べた ③ いる ④ 作った
- 5 ① エ ② カ ③ オ ④ ケ ⑤ イ ⑥ ア ⑦ コ ⑧ カ  
⑨ ケ ⑩ ク ⑪ ウ ⑫ キ ⑬ イ ⑭ ウ
- 6 (1)子供たち／が／元気に／遊ん／で／いる。  
(2)八(文節)

## 解説

- 1 (1)「つくられて／いる」ならば補助の関係で二文節。  
(2)「お礼」は一語。「お」などの接頭語は一単語として数えない。  
(3)「巻き付く」は複合語で一語。  
(4)「オーロラ」はほかのどの文節とも係り受けの関係を持たない。
- 2 (1)「夏には」は「開かれる」を修飾する。この文の主語は「花火大会が」である。  
(2)「重いが」の「が」は逆接の接続助詞。  
(3)倒置のない文なら述語は文末にある。述語を探し、その主体として主語をおさえると確定。倒置の場合は普通の語順に直して考える。
- 3 文節の形で連体修飾語か連用修飾語かを見当を付け、自然に結びついていく部分をつかむ。(3)「拾った」のは「いつも」のことではないのでかからない。  
補助の関係にある文節は連続している。
- 4 文中での単語の働きや性質をつかむ。
- 5 ① 「心細い」は複合語で一語。② 「がたがた」は副詞。  
③ 「一般的で」は形容動詞「一般的だ」の連用形。  
④ 普通の語順に直したうえで、主語・述語をつかむ。  
⑤ 文節の初めに「公園、」とあり、独立語となる。  
⑥ 「頑張ったが」は接続語。
- 6 ① 「美しい」「さまざま」も「絵を」を修飾する。  
② 独立語が感動詞とは限らない。
- 7 (1)「子供たち」で一単語。「たち」は接尾語。「元気に」は形容動詞「元気だ」。「で」は助詞「て」の濁音化。  
(2)この一土地が、「今日から」家族の「新しく」住む「場所」になる。

## 入試につながる

一文を文節に分け、主語・述語・修飾語などを見分けられるか、単語に分け、品詞がいえるか確認しておこう。

## パワーアップ

- 主語：「が」「は」が付く部分。述語の主体としてとらえる。
- 述語：倒置がなければ文末にある。「どうする」「どんなだ」「何だ」を表す部分。
- 独立語：感動・挨拶・応答の言葉のほか、文の初めで「、」それは「の」形で示された名詞が独立語になる。
- 接続語：接続詞のほか、接続助詞が付いた文節の場合もある。

## 形容動詞の見分け方

「きれいに」などと活用させることができ、連体形が「な」の形になれば形容動詞。

# 文法 2

## 第4回

### ステップ 1

- 1 (1)あの人・人・とても・なめらかな・英語・話す  
(2)今・すばらしい・映画・たくさん・作ら  
(3)兄・約束・うっかり・忘れる・ところ  
(4)古代人・とつ・海・恐ろしい・場所・あつ
- 2 (1)作文・題材 (2)あいさつ・親しみ・気持ち  
(3)デザート・二種類・ケーキ  
(4)アゲハチョウ・葉・卵
- 3 (1)穏やかだ・形容動詞 (2)寒い・形容詞  
(3)選ぶ・動詞
- 4 (1)ア・b (2)ウ・d (3)オ・b (4)ア・e  
(5)イ・c (6)エ・a (7)オ・f (8)ウ・a
- 5 (1)イ (2)エ (3)ア (4)ウ  
(1)びゅうびゅう・ア (2)全く・ウ  
(3)ずいぶん・イ

### ステップ 2

- 1 ①夜・咲く・花・意外に・多い・ある  
②コナラ・比べる・クヌギ・実・丸い
- 2 ①親切だ・形容動詞 ②暑い・形容詞  
③行く・動詞
- 3 ①助け ②見 ③走る ④来い ⑤成功すれ ⑥捨て  
⑦起き ⑧読ん
- 4 ①ウ・a ②イ・b ③ア・f ④オ・a ⑤ア・b  
⑥イ・d ⑦ア・c ⑧エ・e ⑨ウ・b ⑩オ・b
- 5 ①カ ②ウ ③ア ④オ ⑤イ ⑥エ  
(1)エ  
(2)エ

### 解説

- 1 助詞・助動詞を除いていく。
- 2 (1)「身近な」は形容動詞で用言。  
(2)「親しみ」は「親しむ」から転成した名詞。  
(3)「二種類」のように数を含むものは「数詞」という種類の名詞。
- 3 (3)「贈り物」は名詞(体言)。用言である動詞、形容詞、形容動詞の言い切りの形を覚えておこう。  
動詞の活用の種類は、まず言い切りの形にしたうえで、「ナイ」に続く形にして見分ける。「ナイ」の直前の音がア段なら五段、イ段なら上一段、エ段なら下一段。(7)のように複合語になったサ行変格活用の動詞に注意。
- 5 (1)「〜ように」などたとえの言い方と結びつく副詞。  
(2)応答の言葉は感動詞。
- 6 連用修飾語の中で、一語で活用のないものを探す。(2)は「全く……ない」の呼称。

### 解説

- 1 ①「意外に」は形容動詞の連用形で用言。
- 2 活用する語を探す。③「演奏会」は体言。
- 3 ①「助ける」は下一段活用。「助かる」(五段活用)と区別する。
- 4 ③「回す」は「回さナイ」、⑤「咲く」は「咲かナイ」、⑦「増す」は「増さナイ」となる五段活用の動詞。  
①は打ち消し推量、②は仮定、③は推量、④は願望、⑤は否定、⑥は疑問の言葉で受けている。
- 6 (1)ア「言わナイ」、イ「差し込まナイ」、ウ「そらさナイ」は直前の音がア段なので五段活用。エ「務めナイ」でエ段なので下一段活用。  
(2)「イギリス人」(体言)にかかる連体詞。

### 入試につながる

それぞれの品詞の働きや形に注意して、間違えなく見分けられるようになる。

### ↑パワーアップ

#### 名詞の種類

●普通名詞：一般的なものの名前を表す。

●固有名詞：人名・地名・国名・書名など。

●数詞：数量や順序を表し、数字を含むもの。

●形式名詞：もとの意味が薄れ、形式的・補助的に使われる名詞。

●例 一人・三番目・第五回

●例 悪いこと・今のところ

#### 主な連体詞

- の……この・その
- る……ある・いわゆる
- な……大きな・小さな
- た……たいした・とんだ・たった
- その他……わが

# 文法 3

第 **5** 回

## ステップ 1

- 1 (1) ス (2) ク (3) サ (4) カ (5) タ (6) ア (7) ソ (8) シ (9) イ (10) コ (11) ケ (12) キ
- 2 (1) イ (2) エ (3) ア (4) ウ
- 3 (1) 助動詞 (2) 接続詞 (3) 動詞 (4) 形容詞
- 4 (1) ウ (2) イ (3) エ (4) ア
- 5 (1) ウ (2) イ (3) ア (4) ウ (5) イ (6) ア
- 6 (1) お乗り  
(2) 召し上がって(お飲みになって)  
(3) おっしゃった(お話しになった・話された・言われた)  
(4) お持ちする  
(5) 参り(うかがい・参上し)

## ステップ 2

- 1 (1) ク (2) カ (3) ウ (4) コ (5) シ (6) ア
- 2 (1) イ (2) エ (3) ア (4) ウ
- 3 (1) a 接続詞 b 副詞 (2) a 動詞 b 連体詞  
(3) a 名詞 b 助詞 (4) a 接続詞 b 助詞  
(5) a 形容詞 b 連体詞
- 4 (1) イ (2) エ (3) ウ (4) ア (5) エ
- 5 (1) オ (2) ウ (3) イ (4) キ (5) エ
- 6 (1) ウ (2) エ

## 解説

- 1 (1) 上に「まるで」があるので比況(ひきょう)「たとえ」。(2) 体言に付く「だ」は断定。(5)は連用形に付く様態の、(7)は終止形に付く伝聞の「そうだ」。(9)主語は「作品は」なので受け身。
  - 2 (4) 「ば」は、ここでは仮定の順接を表す接続助詞。
  - 3 (1) 付属語なので助動詞。(4) 自立語なので形容詞。
  - 4 (1) ウは起点を、アは材料を示す格助詞、イは名詞、エは理由を示す接続助詞。  
(2) イは準体言を作る格助詞。アは連体修飾の、ウは節の主語を示す格助詞。エは終助詞。  
(3) エは禁止の終助詞。アは連体詞の、イは形容動詞の一部。ウは断定の助動詞。  
(4) アは接続助詞「て」の濁ったもの。イは原因、エは場所を示す格助詞。ウは形容動詞の一部。
  - 5・6 動作主を確かめる。目上の人の動作には尊敬語。
- 解説**
- 1 「サッカーやバレーボール」は「球技」の例。
  - 2 ③ 起点を示す格助詞。④ 仮定の順接を示す接続助詞。
  - 3 ③ a は主語なので名詞。⑤ b は活用しない。
  - 4 ① とイは限定を表す副助詞。② とエは推定の助動詞。他は形容詞の一部。③ とウは伝聞、ア・イ様態。エ副詞+断定の助動詞。④ とアは断定の助動詞。イ「ようだ」の一部。ウ「た」が濁ったもの。エ形容動詞の一部。⑤ とエは接続助詞。
  - 5 動作主や状況をおさえて適切なものを選ぶ。
  - 6 (1) 「見えない」とウは助動詞。ア形容詞の一部、イ補助形容詞、エ形容詞。  
(2) 「ために」とエは動作の目的を示す格助詞。ア接続助詞「のに」、イ形容動詞の一部、ウ副詞の一部。

## 入試につながる

まぎらわしい品詞はよく出題される。敬語は誤った表現の指摘や書き直しができるようにしておく。

## ↑ パワーアップ

助詞の種類の見分け方

### ● 格助詞の特徴

主に体言に付く。

### ● 副助詞の特徴

いろいろな語に付き、主に連用修飾語になる。

### ● 接続助詞の特徴

主に活用する語に付く。

### ● 終助詞の特徴

主に文末に付く。

### まぎらわしい品詞

まず、自立語が付属語

かを見分ける。

### 敬語

「お〜になる」「尊敬、

「お〜する」「謙譲」を混

同しない。「いただく」

は自分の動作に使う。

# 論理的文章 1

## ステップ 1

- ① (1) イ
- (2) 翻訳・演説・講演（順不同）
- (3) 例 公的な感じがあり、日常の会話にあまり用いられないという性質。（30字）
- (4) それまで地
- (5) 工
- (6) 例 言文一致体の地の文の記述に客観性を確保すること。（24字）
- (7) 工

## ステップ 2

- ① (1) 工
- (2) 例 (絵画は)原則的に世界中でただ一つしか存在しない事物を描く(ものであるから)。(24字)
- (3) 例 特定の事物をかたどったフォルムに、他の同種の事物を思い浮かべることができるといえるような普遍性がある場合。(49字)
- (4) ア
- (5) ウ

### 解説

- ① (1) 文章中に繰り返して出てくる「である」がキーワード。
- (2) 「明治時代」の「である」の使われ方を挙げているのは初めの段落。そこから探す。
- (3) 前の段落から「である」の性質の説明にあたる「公的な感じのする文末表現」「日常の会話にはあまり用いませぬ」をおさえてまとめる。
- (4) 直後の一文の中で例が列挙されている。
- (5) 「ところが」と同じ逆接の接続語を探す。
- (6) 可能になったのは「言文一致体の一番の悩み」の解消それを具体的に書く。
- (7) 筆者は「である」とそのほかの文末表現の具体的な用例を挙げて比べている。

### 解説

- ① (1) 空欄のあとで「文字とは……と定義できるだろう」とまとめているので、**説明・補足の接続詞**が入る。
- (2) 「文字」は「実体に対する普遍性が要求される」。「絵画」の事物は一つしか存在しない↓普遍性がない↓文字になりえないという**論の流れをとらえる**。
- (3) 「山をかたどったフォルム」から、特定の山ではなく山という事物を思い浮かべるとい**例が表す意味が指示内容**である。「山」「文字」と置き換え、「普遍性」の語を用いてまとめる。
- (4) 「あくまで……絵画そのものではない」と差異を述べているので、**ア**が正解。
- (5) 「事物の……描いたもの」という象形文字は**ウ**。**ア**は指事文字、**イ**は形声文字、**エ**は会意文字。

### 入試につながる

指示語の指示内容は、代入すると意味が通るものを探す。接続語は前とあとの関係をつかむ。関係の種類と、それぞれに適応する接続語を覚えておく。

### ↑ パワーアップ

#### 話題の見つけ方

- **キーワード**(文章中で繰り返されている言葉)をおさえる。
- **初めの部分**で提示されていないかを探る。
- **問いかけ表現**など、読者の注意を喚起する表現に注目する。
- **題名・書名**がヒントになることもある。

#### 指示内容のまとめ方

- ① **指す部分をつかむ**…大半は前。指す部分にも指示語がある場合はその指す内容もつかむ。
- ② **結びの語を決める**…代入部分に合わせる。
- ③ **まとめる**…係り受けを整える。

# 論理的文章 2

## ステップ 1

- 1 (1) 例 集団に属して連帯行動をすること。(16字)
- (2) a 埋没する  
b イ  
c 例 みんなが一致してひとつの方向に向かっているとき、その集団の目標を達成すること。(39字)
- (3) このように
- (4) 工

## ステップ 2

- 1 (1) イ
- (2) 例 すぐに苦手だと決めてチャレンジをやめてしまうと、得意なことや本当の面白さに気づかず、自分の可能性を広げられなくなってしまうから。(64字)
- (3) 例 1 古代の海で生存競争に敗れた魚たちが、川という環境に逃げ延びて淡水魚へと進化し、川に暮らすようになった。(51字)
- 例 2 川での生存競争に敗れ浅瀬に追いやられた魚たちが、両生類へと進化し、陸地が上がっていった。(44字)
- (4) 工

## 解説

- 1 (1) 「…なければなりません」「…する必要があります」という表現をおさえる。「集団に属して共同して動くこと。」などでも可。
- (2) a 個としての存在が失われる状態を表す言葉を探す。終わりの段落の「埋没し」を言い切りにする。
- b 吸収されない状態は「積極的に同じ価値を共有する個人が集まる」「内部で採め」という、個性が維持された状態。イがこの反対の内容にあたる。
- c 四段落目「吸収されることは…有効です」に着目。
- (3) 最後の段落で結論を述べる構成の文章である。
- (4) 最後の段落の要点となっているものを選ぶ。

## 解説

- 1 (1) ①文末の「理由があります」の「理由」はこのあとに述べられているので、ウ・エは入らない。②あとに「ではありません」と打ち消しがあるので、ア・ウは入らない。どちらもあてはまる言葉があるのはイ。
- (2) 第六段落の「苦手」と決めつけてしまうと、…：出会うことはない」、第七段落の「得意なことを探すためには、…：捨ててしまわないことが大切」に着目して、可能性を狭めるから、とまとめる。
- (3) 「例を一つ」なので、この段落にある両生類の例か、前の段落の淡水魚の例のどちらかを書く。「ナンバー1」になれなくて「探した」のだから、その状況を具体的に書くこと。
- (4) 第九段落の最後の「生物の進化を見ても、…：劇的な変化は、常に敗者によってもたらされてきました」に着目する。生存競争の「敗者」が進化できるのである。「敗者」にあたるものは工の植物Dのみである。

## 入試につながる

話題は文章の初め、論旨や結論は文章の終わりに注目。段落の働きや関係は、各段落の要点をつかんで考える。文末表現から事実と意見を区別し、意見を中心内容としてとらえよう。

## ↑パワーアップ

理由の説明の仕方  
理由を「〜から。」と一言で書いてみる。順接の「だから・したがって」、補足説明の「なぜなら」の前後に着目する。  
・補足部分を加える。  
直接の理由となる事柄が生じた背景などもわかるようにする。

## 中心内容の見分け方

要旨・要旨をつかんだり、短縮して述べたりするときは、中心部分となる根幹(省略不可能な重要部分)をおさえる。

# 文学的文章 1

第 **8** 回

## ステップ 1

- 1 (1)家の前の道で身じろぎもせずうつぶせている身体
- (2) a おびえた  
b 冷静
- (3) マネキンめいて見える
- (4) 例人が倒れていること。(10字)

## ステップ 2

- 1 (1)エ
- (2) 例釣った魚を食べることをかわいそうと思ったのに、食べるとおいしく、祖父たちはもう一匹食べられていいなと思ったこと。
- (3) イ
- (4) ウ・オ(順不同)

## 解説

- 1 (1)起こった出来事が初めに述べられ、具体的な場面の様子があとに書かれた形である。その場面で起こっていることを正確に読み取る。
- (2)初めの声の様子から a は「おびえた」を入れる。 b は「～な様子」に続けられる「冷静」が適切。
- (3)「表情や生気にとほしい様子」というヒントから考える。「うつろな横顔」が生命のない人形であるマネキンに見立てられている。
- (4)この場面の中心の出来事を簡潔にまとめる。「縁起でもない」という言葉につなげることができる内容にする。

## 解説

- 1 (1)アは祖父の発言である。イは前で、「私」は「釣った魚を食べる」とは思っていなかった」とあるので不適。ウは本文にはない内容である。
- (2)ここでの「現金だ」の意味は、「目先の利害によって主張や態度を変えること」。それまではかわいそうと思っていたのに、もつと食べたいという気持ちになつたということである。
- (3)「身が引き締まる」とは、緊張や真剣な心持ちにより体に力が入ることである。ア「張り切る」、ウ「臆病になる」、エ「憂鬱になる」は、「身が引き締まる」に合わない。
- (4)ア「改まった言葉遣いの会話」が合わない。イ「おそるおそる料理をしている様子」、エ「魚との問答」が不適。ウ第三段落と最後の二つの段落が現在の場面である。過去の回想と現在が交互に語られている。オこれは「私」の視点から語っている一人称小説である。

## 8 入試につながる

文学的文章は、小説でも随筆でも、いつ、どこで、だが、どうしたのかをおさながら読み進める。場面の切れ目、印象的な表現に着目する。

## ↑パワーアップ

表現の特徴のとらえ方  
作品の特徴が出やすいのは次のようなところである。

- ・擬態語・擬音語
- ・比喩表現
- ・人物の口調
- ・文末表現
- ・文の長短
- ・客観的か主観的か

## 場面の分け方

場面は、確実な根拠に基づいて分ける。

- ・明らかな「時」の変化
- 例翌日、～。
- 一年後、～。

大人になつて～。

舞台となつている「場所」の変化

人物構成の変化

# 文学的文章 2

## ステップ 1

- ① (1) イ
- (2) ほんの一瞬
- (3) ヘルドにな
- (4) ア
- (5) ウ

## ステップ 2

- 1 (1) 例 回数券を使い切って新しい回数券を買うと、そのぶん母の退院が遠ざかってしまうかもしれない (43字)
- (2) 例 河野さんが運賃をはらってくれたということ。
- (3) ① 例 河野さんのバスに乗りたいたいということ。
- ② 例 回数券を使わなくていいようにしてくれた河野さんに、感謝の気持ちを伝えたいという思い。
- (4) ウ

※解答例はオリジナル

## 解説

- 1 (1) 「解説者」のような分析的な話しぶりからイを選ぶ。自分から話し出しているので人間嫌いではない。
- (2) 対戦相手にいども思いが顔の様子で描かれているのは「さつご目つきでにらみつけた」の部分。
- (3) ボールをとる様子の文を探す。「押し倒されながらも、ボールを放さなかった」から執念が伝わる。
- (4) あとに「身のこなしも見事」とあるので、「刃物のように」にこめられているのも、俊敏な動作への賞賛。
- (5) 試合を見るまで、直樹は「細くて小さな体」で「おとなしくて、口数の少ない女の子だった」真衣の姿しか知らなかった。試合中の真衣を見た主人公(直樹)の驚きが中心。

## 解説

- 1 (1) 「新しい回数券を買うと、……母の退院の日が遠ざかってしまう」と思い、回数券を使いたくなかった。
- (2) 続いて「整理券と一緒に百二十円、箱に入っていた」とある。河野さんがお金を入れてくれたのである。
- (3) ① あとに「河野さんの運転するバスが来るのを待った」とある。② 河野さんのおかげで少年は回数券を使わなくてすんだ。怖いと思っていた河野さんに対する気持ちに変化し、感謝の思いを伝えたいとバスを待っている。
- (4) ア「気のいい人物」、イ「子ども好きな」、エ「何よりも仕事を優先」は読み取れない。ウ河野さんは「ぶっさらぼう」な言い方をする。「ぶっさらぼう」「不愛想」である。河野さんは少年の気持ちを思いやって運賃をはらってくれたのだ。

## 入試につながる

文学的文章では心情に関する問題が必ず出る。人物の立場になって考えよう。人物像は、その人物についての情報をくまなく拾い出す。テーマ(主題)は文章全体から伝わる内容を読み取る。

## ↑パワーアップ

出来事↓心情

心情は、出来事をきっかけとして生じる。どんな出来事が原因で、どんな心情になったのかをおさえる。

● 心情を表す慣用句  
泡を食う…あわてる。  
眉をつり上げる…怒る。  
目を白黒させる…驚く。  
浮足立つ…恐れや不安で、落ち着かなくなる。  
心を砕く…あれこれと心配する。

肝を冷やす…ぞっとする。  
肝をつぶす…驚きうろたえる。  
後ろ髪を引かれる…心残りがあったて去りがたい。

ステップ 1

1 (1) B

(2) イ

(3) 例 先日スーパーで果物を購入したが、実は家にあつて食べきれず、傷んでしまったため捨ててしまった。買い物に行く前には冷蔵庫の中や家にある食品をチェックするようにしたい。また、兄が風邪を引いて食欲がなかったとき、いつもの分量で作った食事は食べ残しが出てしまった。家族の状態にも配慮したいと思う。(15行/144字)

ステップ 2

1 (1) イ

(2) 例 先日友達と映画を見に行きました。面白かったのですが、私は映画の原作本を読もうとは思いませんでした。しかし、友達は早速本を購入して、読んだほうがよいと貸してくれました。

初めは活字を読むのが面倒に思えました。でも、本のこの場面は映画ではあんなシーンになったのかと考えると、読むのが楽しくなりました。

それからは、小説から映像を思い描く楽しさに夢中になりました。現実にはありえない世界でも自由に想像し描くことができます。読書の楽しさは、世界が広がっていく面白さです。

(20行/239字)

解説

(1) 資料1は日本の「食品ロス」量と内訳の円グラフ、資料2には「家庭系食品ロス」の「直接廃棄」「過剰除去」について説明がある。Bにこれらの資料があれば、話の内容がわかりやすい。

(2) A第二段落で数値を示している。イ「自分の工夫例」は述べていない。ウ「思いませんか」「うでしょうか」など呼びかけを用いている。エコンビニでの体験が「食品ロス」というテーマのきっかけになっている。

(3) スピーチ原稿の「家庭での食品ロスを減らすためには『買すぎない』『作りすぎない』『食べきる』」に着目して、自分の生活の中の経験や見聞から、具体的な工夫を考える。

解説

1 (1) 上から二番目は「友達」、三番目は「家族」、四番目は「学校」という「周囲」の働きかけがある。

(2) Bさんの最後の発言は、「より多くの人に読書の楽しさを感じてもらえるといいですね」というもの。自分の読書経験を思い出し、それを「読書の楽しさ」に結びつける。特別なことは書かなくてよいので、このような楽しさがあるなら読書をしようかと、多くの人が思えるように書こう。

【配点の基準】

- ・ 求められている条件が満たされているか。
- ・ テーマやポイントがずれていないか。
- ・ 段落ごとの内容が整理されているかどうか。

入試につながる

作文はほぼ全公立で出題されている。条件作文、表やグラフ、写真を見て意見を述べるもの、スピーチ原稿など多様。スピーチ原稿：聞き手に配慮する。

表やグラフ：数値の差やグラフの動きから、読み取る。

意見文：意見の根拠を示す。

↑パワーアップ

作文の字数は、ほぼ百〜二百五十字なので、ポイントを一つにしぼる。序論・本論・結論(二段落の場合)、事実と意見)の配分を考えて、まとまりのある作文にする。

作文の内容

内容そのものが問題になることはないが、極端に反社会的な意見や、個人攻撃などは書かないこと。

# 詩歌

第 11 回

## ステップ 1

- 1 (1) **エ**
- (2) (第)一(連)
- (3) **イ**
- (4) 例 自分を見つめ充実させようとしながら静かに過ごすこと。(26字)
- (5) **ウ**
- 2 (1) **オ** (2) **イ** (3) **ア**
- 3 (1) 季語 雪 季節 冬
- (2) けり
- (3) **イ**

## ステップ 2

- 1 (1) **エ**
- (2) **ア**
- (3) **ウ**
- 2 (1) **エ**
- (2) 例 早くスケートをしたというわくわくした心情。
- 3 **イ**
- (2) **ア**
- (1) **ウ**

## 解説

- 1 (1) 現代語(口語)を用い、自由な形式で書かれている。  
(2) 三行目が「さくら」と体言で終わっている。  
(3) 心もち自分を見つめる点で擬人化されている。  
(4) 「静かに過ごす」「自分を見つめ 充実させる」の二箇所をつないで考える。  
(5) 樹の心を学ぼうとしている気持ちなので、**ウ**。
  - 2 「もし世の中に桜というものがまっただくなかったならば、(散る心配などをしなくてすむので)春を心穏やかに過ごすことができるだろう」という歌。
  - 3 (3) 自分で戸外の雪を見ることができない病床で、その雪を思う作者。
- 1 (2) 「嫩葉」は「若葉」で、早春を示す。  
(3) 「もつれあい。」「くすぐりあい。」「きき耳をたて。」「ざわめきたち。」「駆け足であがり。」「裸になり。」「歓声をあげ。」は、いずれも人に見立てた表現で、連用形で止めてリズムを出している。
  - 2 (1) ① 季語は「スケート」冬。**ア**「雲雀」春、**イ**「名月」秋、**ウ**「遠花火」夏、**エ**「みぞれ」冬。  
(2) 「逸る」は「早く実現させたくてあせる」意。  
(2) ① 「包み」「わめく」は擬人化した表現。  
(2) 「木の芽がわめく」なので**ウ・エ**は不適。「わめく」にはうるさいほどの勢いが感じられる。  
(3) 「轟く」とは鳴り響くこと。「鳴り響くような夕焼」は、夕焼を聴覚でとらえた表現。しばらくして、夕焼の赤が遠くなった 薄まった、ということである。

## 入試につながる

詩歌は、繰り返し読み、一語一語の意味を丁寧に考えたうえで解釈する。基礎知識に関する問題は、確実に答えられるようにしておこう。

## ↑ パワーアップ

ねらわれる基礎知識

- ・ 詩の種類：現代詩はほとんど「口語自由詩」。
- ・ 表現技法：「体言止め」「倒置法」「擬人法」「直喩」の出題が多い。
- ・ 句切れ……。(句点)がつけられる所を探す。

## 季語のとらえ方

季節を象徴するものを探す。季語の季節は旧暦によるので注意が必要。

## 詩歌の情景のとらえ方

- ① 語句の意味をつかむ。
- ② 作者の感覚がとらえている事物をつかむ。
- ③ 作者の立場になり、見ているもの感じているもの様子をまとめる。



# 古典 2

## ステップ 1

- 1 (1) 或時、  
(2) **工**  
(3) 例 目籠も買おう。( )  
(4) **イ**
- 2 (1) 浅黄の上下着たる翁の、殊の外に物佗しげなる  
(2) ここに社を作りて斎ひ給へ。  
(3) そとそと
- 3 (1) **イ・キ** (2) **オ・ク** (3) **ア・カ** (4) **ウ・ケ**

## ステップ 2

- 1 (1) **ア・イ・エ**(順不同)  
(2) **ウ**  
(3) **ア→ウ→エ→イ**  
(4) **ア**
- 2 (1) **ア**  
(2) **工**  
(3) **イ** 例 他人のためによいことをして、その相手によ  
いと生まれ、喜ばれようとする(34字)  
Ⅱ 例 自分のことを考えた(9字)
- 3 ① 枕草子  
② 方丈記  
③ 兼好法師

## 解説

- 1 (1) 「芳野」での体験の部分は「或時、」から始まる。  
(2) 「つつ」は「ながら」の意。「打ち」は語調を整え  
る接頭語で、「打つ」意は表さない。  
(3) 「ん(む)」は助動詞で意志を表す。  
(4) 利己的な都の人と、連れにももうけさせようとする芳  
野の娘を比べて述べている。
- 2 (1) 「物」との会話文の直前から読み取る。  
(2) 「斎ひ給へ」は「祀ってください」の意。  
(3) 「手」が顔をなでる様子を表すのに使われている。
- 3 重要な作品は、作品名と成立した時代、作者や歌の撰  
者などを覚えておこう。

## 解説

- 1 (1) **ア・イ**の主語は「博雅三位」、**ウ**は「直衣着たる男」、  
**工**近寄って見たのは「博雅三位」、**オ**「召す」は「取  
り寄す」の尊敬語で主語は「帝」である。  
(2) ① 笛を吹く男は「いまだ見ぬ人」なので、「偶然の出  
会い」。② 「夜ごろ」は「数夜このかた」の意。  
(3) **ア**は「その笛の音、……めでたく聞えければ」、**イ**は  
「その音を……なかりけり」、**ウ**は「こころみに、……  
世になきほどの笛なり」、**工**は「もとの笛を……なが  
くかへて」に対応する。
- 2 (1) 逆接を表す助詞「ども」に着目して考える。  
(2) 「一期」は「一生・生涯」の意。「一期一会」という  
四字熟語がある。
- (3) **イ**——線②の主語「人のために善き事をして……と思  
うてするは」を現代語訳し、字数内にまとめる。  
Ⅱ 「これは、自身を思うて」に対応する。

## 入試につながる

古文が読み解けるかど  
うかは、古語の知識量に  
かかっている。重要な古  
語はチェックしておこう。  
また、古典の主要作品  
名・作者・ジャンル・時  
代を覚えておこう。

## ↑パワーアップ

### 古語の意味

複数の意味がある語も  
あるので、古語の意味は  
文脈に合わせて解釈する  
ことが大切である。

### 例 「やさし」

- ・ 身も細るほど恥ずか  
しい。ついでい。
- ・ 優美だ。上品だ。
- ・ 遠慮深い。
- ・ けなげだ。

### 助動詞を知っておく

主な助動詞がわかると  
古文が理解しやすい。

- 古文が理解しやすい。
- めり…推量
  - む(ん)…意志・推量
  - き・けり…過去
  - つ・ぬ・り・たり…完了
  - べし…意志・推量・可  
能・当然・適当

## ステップ 1

- 1 (1) ①上善若水。 ②以和為貴。  
③一葉落知天下秋。
- (2) ウ
- (3) ①季下に冠を正さず。・エ  
②好事は門を出でず、悪事は千里を行く。・ウ
- 2 (1) 1 2 5 3 4 (2) ア  
(3) 峰・松 (4) 奇峰 (5) エ
- 3 (1) 律詩  
(2) ウ

## ステップ 2

- 1 (1) 宋人「有耕田者」。  
(2) 先王の政を以て、当世の民を治めんと欲するは
- (3) ア  
(4) エ
- 2 (1) I 七言絶句 II 五言律詩  
(2) Aウ Bア  
(3) 楼・浮・舟・流  
(4) イ

## 解説

- 1 (1) 上下を返すにはし点、二字以上返るには一・二点。  
(2) 訓点と読点に注意する。「虎穴」「虎子」は一語。危険を冒さなければ成功はつかめないという意味。  
(3) 連続するし点は一番下の字から順に上へ読む。
- 2 (1) 二点の字をとばして、その直後から読む。  
(2) 漢詩の形式は文字数と行数で判断する。  
(3) 積乱雲などの夏雲を奇妙な形の山にたとえている。  
(4) 「秀ず」は際立って立派な様子。合うのはエ。  
(5) 「秀ず」は際立って立派な様子。合うのはエ。
- 3 (1) 四行の詩は「絶句」、八行の詩は「律詩」。  
(2) 「涙」「恨」から「悲嘆」をおさえる。

## 解説

- 1 (1) 一・二点の間にレ点がある。  
(2) まず一・二点を読み、上・中・下点の順に読んでいく。  
(3) 何もしなかったのに、兎を得ることができた。  
(4) 先王のやり方で今の民を治めようとするのは、切り株を見守るというのと同じで、何も得られない。
- 2 (1) I 一行の字数が七字で四行の詩なので、七言絶句。  
II 一行の字数が五字で八行の詩なので、五言律詩。  
(2) 三句は「猿声」を聴いているので聴覚、四句は船の中から沿岸の山々を見ているので視覚である。  
(3) 五言律詩は偶数句の末の字が韻を踏んでいる(押韻している)。  
(4) ア対句は正しい。イ作者は岳陽楼に登って洞庭湖を眺めている。ウ「一字無く」とは便りがまったくないということ。エ一句〜四句は洞庭湖の雄大なさまを描き、五句〜八句は自分自身の心情である。

## 入試につながる

漢文は、訓点の意味や用法を身につけ、書き下し文を書けるようにする。漢詩の種類や韻のとりえ方も覚えておこう。

## ↑パワーアップ

漢文独特の言い回し  
・曰く、〜と。…会語文  
・〜すること勿れ…禁止  
・能く〜莫し…不可能  
・能はず…不可能  
・を以て…対象

〔〜〕の意

## 再読文字

二度読む文字。一度目は返り点を無視して読み、二度目は返り点に従って読む。二度目の読みは左側に付く。

・未…いまだ〜ず。  
・将…まさに〜(んと)す。

## 置き字

中国語の文法では必要だが、日本語としては読まない字。  
於・而・矣など

## ステップ 1

- ① 西行のころ
- ② ①新古今和歌集(新古今集)
- ③ ②三(句目)・四(句目)
- ④ ③工
- ⑤ ④西行が通った道を、「こころざしさえしぐれゆくなり」とすさんだたらえ方で詠んでしまったから。
- ⑥ ⑤イ

## ステップ 2

- ① ①例常識に捉われず自由な心で読む(14字)
- ② ②例現代の青年には春イコール憂鬱というイメージがないから。
- ③ ③ア
- ④ ④A例水があふれている川の(10字)
- ⑤ ⑤Bウ

## 解説

- ① 「自分がいま出会うとしているのは…」という表現に注目する。
- ② ①藤原定家が編纂した歌集。鎌倉時代初期に成立。
- ③ 係助詞「や」、助動詞「けり」で一度ずつ切れる。
- ④ 現代語訳すれば「年老いてから再び越えるなどと思っていただろうか(いや、思いもしなかった)。小夜の中山をまたもこうして越えるとは、命ながらえてこそのことだなあ」となる和歌。
- ⑤ 筆者の歌の印象が暗いことと結びつけて書く。
- ⑥ 終わりの文から筆者の思いを読み取る。

## 解説

- ① ①次の段落に「読者も社会流通の常識に捉われず、自由な心で詩のことは読むことが必要です」とある。
- ② ②この詩が一時非常に愛されたのは、当時の青年に春イコール憂鬱(心象イメージの憂鬱)という常識があったからである。今の青年にはそれがなかったため、忘れられていると筆者は考えているのである。
- ③ ③普通は「春は／小さな川々まで／たつぷりと／あふれてゐる／あふれてゐる」となる。
- ④ ④A詩人が見たのは、春になって雪解け水で川があふれている光景である。
- ⑤ ⑤B「春がたつぷりとあふれている」という表現から感じられるのは、春を迎えた喜びである。

## 入試につながる

複合的な文章では、文章中で取り上げられている作品と、地の文の説明を照らし合わせて読む。地の文の説明部分を手エックしておく。

## ↑パワーアップ

詩歌を含む随筆

鑑賞的な随筆

詩歌の説明が中心。

● 生活文・紀行文的随筆

詩歌に随筆の主題が暗示されることがある。筆者がその詩歌を引用した動機を考える。

季節感 周辺の風景

心情 詩歌の作者への関心

詩歌の鑑賞文の読み方

● 要素をつかむ

語句・表現、情景、心情、背景、主題などの要素をつかむ。

● 詩歌を見ながら読む

詩歌作品と、地の文の説明内容を照らし合わせて読み進める。

解答

1 問1

ウ

例 幼い時のワクワクした気持ちがよくあつて、原稿を書き進めることができるおまじないの言葉。(44字)

2 問1

I ことば II 美しい

2 問2

意図する指

3 問3

8 (段落)

4 問4

A 具体的な内容を伝達

3 問1

いう

3 問2

イ

4 問1

①きようきゆう

②ちよぞう

③せば

2 問2

①電池

②郷里

③刻

④絹糸

解説

1 問1

——線①の文と直前の文の内容の関係をとらえて接続詞を考える。——線①の文は、直前の「『オノマトペ』には……許してくれます。」を言いかえ、簡潔にまとめているので、説明・補足の関係となり、ウの「つまり」が適切。ア「しかし」は逆接、イ「あるいは」は対比・選択、エ「ところで」は転換。

2 問2

問題文に示された「書く人」としての筆者が、……無意識に口にするとき」という状況が書かれているのは、第四段落である。第四段落中の「これ(＝父が語った『オノマトペ』は私のおまじないの言葉)」に着目し、その前の一文の内容を加えてまとめる。

3 問3

——線②のあとに「言葉って、……不思議なほど相手に伝わる」とある。これに合うのはア。イの「弾むような言葉遣い」が「自分自身にもできる」、ウの「まじは意味を捉えることが重要」、エの「意味は必要ない」は、どれも文章にない内容である。

2 問1

警官については、②段落に「警官は、ことばで……と言うかわりに、笛の音を使っている」とある。音楽家については、⑤段落に「フルート(＝笛)を吹く行為の究極の目的」として「美しく、しかも個性的な音色を出すこと」とある。その前には「笛から出る音は美しくかつ創造的でなければならぬ」とあり、個性的で、創造的で、美しい音色が求められている。

2 問2

「伝達効率が低い」とは、効率よく伝達されるということ。⑦段落にある「警官の意図する指示が、簡潔にそして明確に伝わること」が、「効率」のよい「伝達」である。

入試につながる

公立高校の入試では、論理的文章(説明文や論説文)、文学的文章(小説や随筆)、古典(古文や漢文)、詩歌(詩・和歌・俳句)の読解問題のほか、課題作文、言語関係(漢字・語句・文法・敬語)の問題が出題される。放送による聞き取り問題が出る地域もある。

問題の構成は地域によってほぼ一定なので、過去問題集などを活用し、自分の受ける地域の出題傾向を十分に把握しておくことが大切である。

1 随筆を読むときには、論理的文章と文学的文章の両方の読み方が必要になる。現在の筆者の視点で考えている内容についての問いには論理的文章の読み方を、実際に体験した場面を描いた部分で心情を問う問題などは、文学的文章の読み方をするとよい。

3 解説

◆現代語訳◆

太田左衛門大夫持資は上杉宣政の身分の高い家来である。鷹狩に出かけて雨に遭い、ある小屋に入って蓑を貸してくれと言うと、若い女が何も物も言わないで、山吹の花を一枝折って出してきたので、「花がほしいのではない」と怒って帰ったが、これを聞いた人が、「それは、

七重八重花は咲けども山吹の  
みの一つだになきぞ悲しき

(七重にも八重にも花は美しく咲くけれども、山吹の実の一つさえないのが悲しいように、貸す蓑が一つもないことが悲しい。)という古い和歌に託して答えた心情でしよう」と言う。

持資は和歌の奥深さにはっと気づいて、それから歌道に心をひかれるようになった。

解説

**問3** ④〜⑥段落で、音楽家の笛の音について述べ、音楽家の笛の音は「詩的機能を果たしている」と言っている。そして⑧段落で、近代音楽の中には写実的な描写のジャンルもあると、当てはまらないものを挙げ、そのあとで「しかし全般的に言うならば、……」と、それは例外であることを述べている。

**問4** ——線②の「ここ」は、前の⑨〜⑪段落を指す。「詩」において、ことば(言語)は、具体的な内容を伝達すること(＝本来の機能)よりも、「ことばという音声素材のもつ美しさを、極限まで引き出す」ことで「音声による美の世界を創り出す」(＝詩的機能)ものだと述べている。

**3 問1** 語頭以外のハ行は「わ・い・う・え・お」に直す。「ふ」は「う」となる。

**問2** ②にあるように、和歌の中の「みの」が「山吹の実」と「蓑」の掛詞で、「山吹の実が一つもない」＝「蓑が一つもない」と嘆いているのである。

**問3** 「これを聞きし人」に「古歌のこころなるべし」と知らされ、古歌を知らずに怒って帰ってしまった自分を省みて、歌道に志をもったのである。

**4 問1** ①「供給」の対義語は「需要」。②「貯」は「たくわえる」の意。③「狭い」であれば「せま・い」と読む。④音読みは「シ」「セ」で「施設・施行」「施工」の熟語がある。

**問2** ①「電池」の「池」を「地」と書かない。②「郷」は「ゴウ」とも読む。「近郷」など。③「刻」の音読みは「コク」で「時刻・刻限」など。

**2** 論理的文章では、筆者の考えを正確に読み取ることが大切である。また、筆者が、自分の考えをわかりやすく説明するために、どのような説明の仕方をしているかにも着目する。特に、具体例が挙げられている場合には、どのような具体例が、具体例と筆者の考えとのつながりを考え、具体例を参考にしながら筆者の考えを読み取るようにする。

**3** 古文は、まず知識事項で確実に得点できるようにしておく。歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題や、省略された主語を問う問題は頻出である。前書きや注に答えのヒントがある場合もあるので、必ず目を通しておく。

**4** 漢字の読み書きの問題では、同音異義語や同訓異字に注意する。



解答

1 問1

- A 心理学
- B 機械工学

2 問2

3 問3

4 問4

例外に広がる様々な分野は、今自分が取り組んでいることと、どこかで結びついているということ。(44字)

2 問1

2 問2

- a 野趣あふれる文字
- b 泣く泣く短くして三十一音に入れ込む

3 問3

4 問4

例強引に差し込まれているにもかかわらず、短歌として認定するに足る韻律や調べを保っている(42字)

3 問1

- ① たんせい
- ② もうら
- ③ ちゆうぞう
- ④ うなが
- ⑤ もう
- ⑥ 順序
- ⑦ 簡潔
- ⑧ 穀倉
- ⑨ 臨
- ⑩ 音

2 問2

3 問3

4 問4

5 問5

6 問6

- ウ
- イ・オ(順不同)
- お待ちください(お待ちになってください)

解説

1 問1

「読書のよい点」は、第一段落で「視点の広がり」と関心の深まりがもたらされる、第三段落で「異なる学問分野がいろいろなところでつながり」とあり、続いて「例えば」と具体的に例が述べられている。Aは「認知科学や脳科学さらには心理学」の部分、Bは「機械工学の分野……心理学」に着目して抜き出す。

問2 挿入する文は、前に述べたことをまとめる接続詞「要するに」で始まっている。すべての分野はつながっている、という内容の段落は(4)。

問3 ア「漢語」の使用は多い。イ本文は「例えば」と具体例を用いて説明している。ウ「資料を適切に引用して」が合わない。エ本文は「:でしよう」という推測が述べられている。

問4 問題文は「どのようなことを認識させてくれますか」なので、最後の段落の「そのような認識の段階に至ったとき」の「そのような」が指している、直前の一文「重要なのは……尊重すること。」をまとめる。

2 問1

「短歌の器」の量を知り、それに合った感情の量を見極めるのが「歌作りに慣れる」ことである。

問2 「そうやって」の指す内容を読み取る。この段落をよく読み、aは「野趣あふれる文字に感動する」に着目すると、「感動する」＝「心を打たれる」と合致する。bは、――線②の前の「茂吉はそうはしない」の「そう」の内容「立て札の文句を……入れ込むこと」である。それぞれ適切な言葉を抜き出す。

問3 「融通」は「とどこおりに通ること」、「無碍」は「妨げのないこと」という意味。難しい四字熟語だが、意味を知らなくても文脈の中で判断することはできる。

入試につながる

入試問題の構成は、地域によってさまざまである。大問の一番から、いきなり難しいような読解問題が出題される地域もあれば、はじめに知識問題がまとめて出題される地域もある。出題順に惑わされず、確実に得点できる問題を取り切れるように、問題に取りかかる順番も考えておこう。

2 複合的な文章は、詩歌・古典に関する出題が加わるが、基本的には他の論理的な文章、文学的文章と解き方に大きな差はない。文章と詩歌あるいは古文を照らし合わせて読み解くような問題では、文章のどの部分と、詩歌・古文のどの部分に対応しているのかを、丁寧に読みながら解いていく。

4  
ウ

◆漢文の訳◆

過ちを犯したことに気づいたら、ためらわずにただちに改めるべきである。

「論語」学而

(過ちを犯したと気づいても、自分の面目や人の目などを気にして、なかなか改められないでいることを戒める言葉。)

5  
問1  
ウ

問2  
ア

問3 例 あぜ道を譲り、年長者を敬う(13字)

◆漢文の訳◆

(周の国の)西伯はいつくしみ深い政治を行い、各国の領主は西伯に従っていた。虞と芮の領主が田を取り合って解決することができなかった。そこで周に(西伯の考えを聞くため)行った。周の国に入って田を耕す人を見ると、みなあぜ道を譲り、人々はみな年長者を敬っていた。二人は恥ずかしく思い、お互いに言うことには、「私が争っていることは、周の人が恥じる行いである」と。そこで西伯に会わずに国に帰り、お互いに田を譲り合って取らなかった。

問4 文章末の「強烈な短歌らしさを感じてしまう秘密

はそこにある」の「そこ」の指す内容をとらえる。最後の二つの段落にある、「五音二句が強引に差し込まれている」、「短歌として認定するに足る韻律や調べを保っている」「短歌の定型の韻律を保持している」に着目し、まとめる。

3  
問1 ①「丹精」は「まじごころ」、②「網羅」は「残らず収めること」、③「鑄造」は「金属を溶かし型に入れて形にすること」の意。⑨同訓異字の「望む」と使い分ける。⑩「音をあげる」は慣用語。

問3 「進退」「加減」「利害」は反対の意味の漢字の熟語。

問4 「待つ」のは相手の行為なので、尊敬語である。

問5 「動か」とア「行こ」は未然形。

問6 問題の「が」とエは格助詞。ア・イは接続助詞。ウ連体詞「我が」の一部。

4 漢文は、まず訓点のついていないもの上から順に読む。「過則勿憚改。」は「1 2 5 4 3」の順。

5  
問1 「決」↓「能」↓「不」の順になるように訓点をつける。「能」にレ点、「不」にレ点をつける。

問2 前書きに「西伯」は「公平な判断ができる人物と言われていた」とある。田を取り合って解決できないでいた虞と芮の領主は、西伯に相談しようとした。

問3 虞と芮の領主は、周の人々が、あぜ道を譲り合い、年長者を敬っている姿を見て、これは西伯が徳のある政治を行っているから、人々も争いなどしないのだと承知したのである。虞と芮の領主は、領主が争いをしてはいけないと反省し、田を譲り合った。

3 漢字・語句・文法な

どの知識問題は、文章読解の長文の中で出題されたり、独立した大問として出題されたりと、地域によって異なるので、自分が受験する所の出題形式を確認しておく。得点源として取りこぼしのないように、確実に知識を身につけておこう。

4 漢詩・漢文は基本的知識に関する問題で、確実に得点すること。読む順のルール、助動詞は平仮名で書くなど、書き下し文にする際のルールを身につける。レ点・一・二点などの返り点のつけ方は、しっかりと練習を積んでおく。

解答

1 問1

問2

問3

例 (一人で行動できる人は、) 自分に自信があるため、一人の時間をもつことで思考が深まり、人間に深みが出て、頼もしく見えるから。

(48字)

2 問1

問2

問3

A 肩から力を抜いて笑った

B 圭太

C パパ

3 問1

問2

問3

例 故郷が恋しくて早く帰りたい(13字)

解説

1 問1

線①はこの段落をまとめた一文である。「私たちの思考は言葉によって担(た)われているため、それは思考の活性化を意味する」の「それ」とは、読書によって「本に書かれた言葉や視点に刺激を受け」、心の中に「さまざまな言葉」「さらなる言葉」が生まれてくることである。この内容は、ウの「以前とは異なる視点から物事をとらえるようになり」と言い換えられる。また「思考の活性化」は「より深く考察する」と合致する。ア「他者に対して説得力のある意見を主張することが可能になる」が誤り。イ「豊かな感情を身に付けることが可能になる」が誤り。エ「良好な人間関係を保つことが可能になる」が誤り。

問2 この一文の前半は、刺激が充満する生活、後半は刺激を絶った退屈な生活であることをとらえる。前半の生活は、前に「外的刺激に反応するだけの受け身の生活」とある。後半はこれとは反対の生活である。C・D共にA・Bと反対の意味合いのAが適切。

問3 線②のあとの「一人で行動できる人は頼もしい。一人の時間をもつことで思考が深まり、人間に深みが出る」が理由である。指定語句の「思考」はここにあるが、「自信」は前の段落中である。一人で行動できる人は自分に自信がある、と言いかえる。

2 問1 「パパ」の言葉に着目する。会話の言葉には人物の心情が表れることが多い。「パパ」は「でもなあ、ちよつとおまえ、そういう笑い方やめたほうがいいぞ。……」と言っている。友だちや松原先生の見方を否定できなくなっている気持ちが表れている。

1 論理的文章の記述問題では、抜き出し問題を解くのと同様に、答えに入れるべき言葉を「探す」という手順が必要である。まず問題をよく読んで、「何を答えるのか」をはっきりさせ、文章中でその答えるべき内容が書かれている範囲を絞り込む。続いてその範囲の中から、答えに入れるべき言葉を抜き出し、答え方の条件に合うようにつなげる。指定字数より大幅に少なければ必要ないものが抜き出せていないのであり、大幅にオーバーしていれば、不要な部分まで抜き出してしまっている。

2 文学的文章の読解では、心情を読み取る問題が中心に出題される。まずは登場人物の人物像や置かれている状況をおさえ、そこで起きている出来事から、心情がどのように変化していったかを考える。また、心情を読み取る際に、心情と行動をセットで覚えておくこと

## ◆現代語訳◆

聞きなれた虫の声も次第に消え果てていき、松を吹き下ろす山頂からの強い風だけがますます激しくなっていく。故郷を恋しく思う心に誘われて、つくづくと都の方を眺めやるその時に、一列に連なる雁が雲に消えゆく様子もしみじみとして寂しい。

帰るべき春をたのむの雁がねも啼てや旅の空に出でにし

(春には再び故郷に帰ることを頼みにして、田の面の雁も鳴いて旅の空に出たのであるうか。)

**問2** どんな状況であるのかをとらえよう。圭太を「友だちが少ないタイプじゃないんですか?」「心配ですねえ」と否定的に評する「リッキーさん」に、「パパ」は「圭太は、いい子です」と言う。この言葉は、「リッキーさん」に反論し、そのままの圭太を肯定している。イは、「いい子」の意味がよくわからなくなつて」とあるので合わない。エが適切である。

**問3** **A**「文章2」に描かれている「パパ」の様子としては、「怖い顔をしたパパ」「パパは静かに言った」「肩から力を抜いて笑った」がある。「気が楽になる」に当てはまるのは「肩から……」の箇所。**B**この物語は圭太の視点で語られている。**C**「文章1」では圭太に否定的だった「パパ」が、**文章2**では圭太をあるがまま認めていて、圭太に対する見方が大きく変わっている。

**3** **問1** ②に「たのむ」は「頼む」と「田の面」の二つの意味が含まれているとある。一つの言葉に、音が同じ二つの言葉の意味を含ませる修辞法(表現技法)は、「掛詞」。「枕詞」「序詞」「係り結び」についても確認しておく。

**問2** 「虫の音」も消え果てたというのだから、秋が去り、冬が到来したことがわかる。

**問3** 渡り鳥の「雁」は、秋から冬にかけて日本に飛来し、春に日本を離れ故郷に帰る。春には再び故郷に帰ることをあてにして旅に出た雁に、遠く故郷を離れている自分を重ね、早く故郷に帰りたという望郷の思いを述べている。「懐土の心」(故郷を恋しく思う心)という言葉もヒントになる。

役に立つ。心情は、行動や表情となって表れるため、描かれた行動や表情に対応する心情を覚えておけば、出来事と照らし合わせて、そのときの登場人物の心情を読み取ることが出来る。

頬を赤らめる…照れ  
声を荒げる…怒り  
歯をくいしばる…がまん  
目をそらす…うしろめたさ、嫌悪感、照れ

**3** 和歌の修辞法は理解しておく。

掛詞…一つの言葉に、音が同じ二つの言葉の意味を掛ける。

枕詞…特定の語句を導くために前に置かれる語句。導かれる語は固定している。

序詞…特定の語句を導くために前に置かれる語句だが、枕詞より長く、固定的な関係はない。

4 解答  
解答例①

158字

問	性	一	作		て	良	と	る	
題	に	方	っ		い	い	し	書	A
点	影	的	た		る	。無	も	物	は
と	響	で	だ		と	機	お	と	、
考	さ	も	の	主	思	質	も	い	辞
え	れ	あ	感	観	う	な	し	う	書
る	可	て	性	的	。無	。無	ろ	だ	が
	能	、	が	な	機	。無	い	け	語
	性	公	読	感	質	。無	と	で	句
	も	平	む	想	に	。無	思	な	の
	あ	な	側	と	個	。無	え	く	意
	る	。見	が	い	性	。無	る	、	味
	そ	方	そ	う	を	。無	点	読	を
	こ	が	の	の	与	。無	が	み	調
	が	で	個	は	え	。無	が	物	べ

120

【解説】  
二段落構成で、一段落目には「良いと思われる点」を、二段落目には「問題点を書く」という条件を必ず守ること。

Aは、「辞書を作った人の主観的な感想」が辞書という書物に書かれているという特徴を、どのようにとらえるかがポイントになる。解答例①は、この特徴を「読み物としておもしろい」「無機質な辞書に個性を与えている」と述べている。印象に残るということである。一方で、その感想の印象が強いことで、辞書という書物のもつ一般性が薄められることも否定できない。良い点が問題点ともなるという構成である。

4 解答  
解答例②

156字

る	の	と	語	用		良	代	味	わ
か	性	で	が	し	問	い	に	れ	B
ら	格	す	載	な	題	と	即	ず	は
で	に	は	せ	い	点	思	し	、	従
す	は	そ	ら	意	は	い	た	現	来
	。ふ	れ	れ	味	、	ま	内	代	の
	さ	は	て	や	一	す	容	か	で
	わ	、	い	用	部	。無	に	れ	用
	し	辞	恐	例	の		な	て	い
	く	書	れ	、	人		っ	い	ら
	な	と	が	また	た		て	い	れ
	い	い	う	は	ち		い	る	た
	と	考	書	あ	し		る	め	い
	考	え	物	る	か		点	、	ら
	え			こ	行		が	時	

120

【解説】  
解答例①と同様、条件を守ること。

Bは「現代的な意味や用例」の掲載をどうとらえるかがポイント。解答例②はこれを、時代に即して良いと、「良いと思われる点」として挙げています。一方、「現代的な意味や用例」は、もともとの意味で用いている高齢者や、使用する機会のない人たちにはなじみがないもので、一部の人の利用にとどまることも考えられる。流行語も同様である。辞書というものは一過性の言葉を掲載すべきでなく、万人の使用にふさわしくなければならぬという考えを、理由として「それは、辞書という書物の性格にはふさわしくないと考えます。」と、述べています。

4 作文を書くときには、普段読解問題で使っている知識やテクニックを活用するとよい。

文章を読むときには、文章構造をおさえ、筆者がどのように自分の考えをわかりやすく伝える工夫をしているかを考え、それをもとに問題を解いていく。作文を書く場合に、そのような筆者の工夫を参考にすることで、説得力のある、わかりやすい文章を書くことができる。

作文の題材も同様である。読解問題を解いていくなかで、自分が共感できる考え、納得できる考えは、「私もそう思う」という形で自分の考え方の一部になっていく。そのようにして、もの見方や物事に対する考え方をたくさんたくわえておけば、さまざまな作文の課題に対して、ふさわしい題材を引き出すことができるのである。